

日常的に何気なく治療している高血圧ですが、考えてみると脳血管障害、心血管障害リスクの代用アウトカムに過ぎない訳です。降圧療法をするにあたって単に血圧値そのもので治療介入を決定していいのか、心血管系リスクを踏まえた上で治療すべきなのかを検証した論文を紹介します。心血管リスクはQRISK2スコアを使っています(QRISK2 スコアはインターネットで簡単に計算できます)。結果はどうだったでしょうか。オッズとNNT (number needed to treat ; 治療必要数)で示されていますが、NNTの方が直感的に理解できていいですね。

もう一つは電子タバコの問題です。新たな健康被害が判明し、その病状や治療についての報告です。ただし米国の電子タバコはカンナビノイドを含有する物が多く、本邦のもの(加熱式タバコ)とは同じではないことに注意が必要です。

1) 10月1日号 2019より

担当：古瀬祥之

降圧治療を行うべき患者をどのように選択するか?

結論：あるレトロスペクティブ試験において、ベースラインの血圧値に関わらず患者の心血管リスクに着目すべきという結果が示された。

原題：

Eligibility and subsequent burden of cardiovascular disease of four strategies for blood pressure-lowering treatment: a retrospective cohort study

Herrett et al. Lancet 394: 663 2019

降圧治療はベースラインの血圧値あるいは患者の心血管リスク、またはその両方のいずれに基づいて行うべきなのか。イギリスにおいて、もともと心血管疾患を有しない120万人のプライマリケア患者(年齢30-79歳)のその後の心血管疾

患発症についてレトロスペクティブに解析した臨床試験が行われた。この試験では以下の4群に該当する患者が検討された。

A群：血圧>140/90mmHgのみ

B群：血圧>140/90mmHgかつ心血管リスクスコア(QRISK2)>20%、または糖尿病あるいは腎臓病の既往、または血圧>160/90mmHgのみ

C群：血圧>140/90mmHgかつ心血管リスクスコア>10%

D群：心血管リスクスコア>10%のみ

A群は他の群よりも患者数が多かった(A群39%, B群22%, C群27%, D群29%)。4.3年の観察期間中にD群は他の群よりも心血管疾患発症率が高かった(A群63%, B群47%, C群56%, D群68%)。降圧治療が心血管リスクを20%低下させると仮定すると、10年間で心血管疾患患者を1人減らすのに必要な降圧治療患者(NNT)はD群で27人と、他の群より少ない結果であった(A群38人, B群28人, C群29人)。

コメント：

この臨床試験から、降圧治療は患者のベースラインの血圧値に関わらず心血管リスクに着目した方が最も効果的ということが示された。ただしこの試験には収縮期血圧120mmHg未満の患者が少なかったことから、心血管リスクは高いものの血圧は高くない患者(例えば脂質異常症を有する110/60mmHgの男性喫煙者)を解析の主対象にはしていないことに注意が必要である。血圧値と心血管リスクの両方を考慮すべきという現在の高血圧治療ガイドラインは再評価の必要があるだろう。

2) 10月15日号2019より

担当：小林祥也

Report of Newly Identified E-Cigarette-Related Lung Disease

新たに同定されたE-シガレット関連肺障害の報告

患者は呼吸器症状、消化器症状、全身症状などがでて、様々な程度の呼吸不全を呈する。

原題 : Pulmonary illnesses related to E-cigarette use on Illinois and Wisconsin -Preliminary report

J Layden et al NEJM 2019 Sep 6; [e-pub]

要旨 : 2019年8月、9月、電子タバコ関連肺障害が一般誌で注目を浴びた。ウィスコンシン州、イリノイ州の保健局が CDC と共に 53 症例を検討し重症電子タバコ関連肺障害を定義した。新たに定義された診断基準は 90 日以内に電子タバコ使用があり、胸部の画像で陰影があり、インフルエンザや他のウイルスなどを含む感染症が除外でき、その他の原因が明らかでないことである。患者の中央値は 19 歳でみな若い男性で全例電子タバコ使用歴があった。60%がニコチンを、80%はテトラヒドロカンナビノール(THC)を含有していた。患者は息切れ、咳、胸痛や消化器症状を呈し、全身症状としてはほとんど発熱がみられた。多くの患者で低酸素血症があり、1/3 の患者では酸素飽和度が 89%以下であった。1/2 以上の患者が ICU へ入院し 1/3 が人工呼吸管理を受けた。好中球上昇が見られたが、急性腎障害はまれであった。14 例の患者で気管支洗浄液が得られ、半数で脂肪を含んだマクロファージを認めた。ユタ州での報告でも 6 例から同様の結果であった。ほぼ全例が抗菌薬とステロイドで加療を受けた。ステロイド併用のほうが良い効果が得られた。今回の報告では死亡例は 1 例であるが、他の地域でも死亡例報告がある。

コメント (Patricia Kritek ) ; 今年 8 月、400 例以上の電子タバコ関連肺障害が報告されたため CDC は健康勧告を出した。電子タバコ関連肺障害への認識を高め呼吸器症状がある患者については電子タバコ使用を調べなければならない。電子タバコ関連肺障害に対する治療はステロイドのみではなく総合的な治療が必要である。